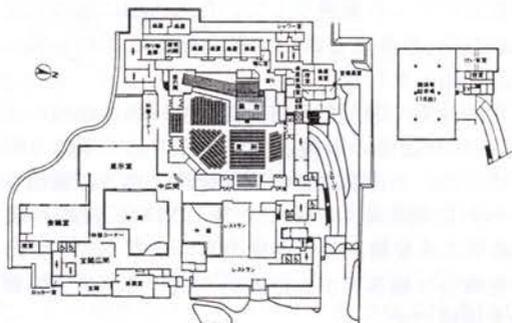


UIFA JAPON NEWSLETTER

■主な内容

UIFA JAPON「10周年記念行事」が春の名古屋で
 この機会に名古屋へどうぞ 谷村留都
 ダイアン・デイヴィス女史を迎えて
 私らしく働く一地域で、組織で 阿部祥子 橘田洋子
 この指とまれ報告 古居みつ子
 ユニバーサルデザインを考える 寺尾信子
 お知らせ/役員会報告



能楽堂の平面図

UIFA JAPON「10周年記念行事」が

会場の名古屋能楽堂 設計：大江 宏



1992年にUIFA JAPONが設立されてから、今年がちょうど10年にあたります。今年度の活動計画にも10周年記念事業が盛り込まれました。大綱がまとまりましたので、お知らせいたしますと同時に、皆様の積極的なご参加をお願い致します。

◇10周年記念特別イベント◇

日程：2003年4月12日(土)～16日(水)

場所：名古屋能楽堂を中心に

- A 記念講演会「私の仕事と生活-UIFAとともに」
ド・ラ・トケルUIFA会長
中原名誉会長、小川会長のトークも乞御期待。
- B 写真展「わたしにとってのユニバーサルデザイン」
会員皆様のコメント付きで展示
- C 交流会 於：名古屋ウエスティンキャッスルホテル
- D オプションツアー 名古屋会員お勧めのコースで市内見学。その後伊勢、鳥羽へ。
- E トークセッション in 東京 4月16日
ド・ラ・トケルUIFA会長を囲み懇親会
- F 写真展 in 東京 名古屋での写真展を移動
春の名古屋を中心に行われる今回の10周年記念特別イベントに、是非ご参加下さい。この機会にお互いの親睦を深め、2004年の万博の下見はいかがでしょうか。又、写真展への参加も別紙募集要項を参照の上、よろしくお願い致します。

詳細についてのお問合せ先：UIFA JAPON 事務局 03-5275-7861

◇10周年記念事業◇

社会(外部)へ向けた発信の継続のため、4事業を下記のようにまとめ起動しました。

(1) UIFA JAPONのパンフレット発行

これまでの活動をまとめたA4、三つ折のもの。活動が一目でわかり、外部の人にも理解してもらえるようなものを作成する。発行は4月記念行事の時とする。

(2) 学校トイレ改善促進研究会(仮称)の発足

—学校のトイレをU+I+F+Aにしよう—
 (Utility Interior with Fantastic Atmosphere)
 学校のトイレを明るく、快適なものにしていくために地方自治体、学校などに改善提案をしていきます。企画・設計をUIFAメンバーが担い、実施への原動力となるようにします。将来的にはこれをN.P.O.として地道な継続的な活動として行う事を視野にいれて進めます。

(3) UIFA JAPON 10年の歩みとこれから

—活動のデジタル資料作成—

10年間の主だった資料を収集し、シナリオを作成、パワーポイントにまとめ、CD化します。将来的にホームページを作成するための足掛かりとします。

(4) UIFA JAPON NPO 法人格取得

外へ向けて発信する事業を進めていくためには、社会的な位置づけを得ていることが必要となる。そのために法人格を取得する事が不可欠、と言う結論に達しました。2003年中を目途とします。

この機会に名古屋へどうぞ

谷村留都

■UIFA JAPON 10周年記念事業を名古屋で

思いがけない名古屋での記念事業は、ド・ラ・トゥールさんをお迎えするだけでなく、まだいらしたことの無い会員の方に知ってもらいたいチャンスです。私も25年程前にいつも素通りしていた名古屋に初めて足を踏み入れた時、意外にきれいで都会的な街だわと感じたことを思い出しました。

今回会場に選んだ名古屋能楽堂は名古屋城の正門前にあり、伝統芸能の振興と交流を目指して平成9年に開館しました。名古屋城との調和を考えた入母屋造りの大小5つの屋根を組み合わせた雁行型の伝統的外観、樹齢600年の木曾檜による従来のものより、ひとまわり大きい能舞台は観客席が630席あり地方自治体の能舞台では最大規模です。



名古屋ウエスティンキャッスルホテル

ある地域で東京でいえば皇居を背景にした丸の内に似ています。地名も名古屋城から南に順に二の丸、三の丸、丸の内と続きます。

また、城の東側は白壁（しらかべ）、主税町（ちからまち）撞木町（しゅもくちょう）と江戸時代の武家屋敷跡が続きます。このあたりにはかなり少なくなったとはいえいくつかの著名な屋敷が残っています。大正12年に建てられた洋館を持つ豊田佐吉邸（現在は名古屋市が借りている）、武田五一設計の春田邸（現在はレストランに

交流パーティ会場および宿泊の名古屋キャッスルホテルは城の西側に位置し、内堀越しに天守閣が望める立地条件のいい名古屋の名門ホテルです。

この界限は県庁、市役所をはじめ主たる公共施設が数多く

ある地域で東京でい



名古屋城天守閣（1945年5月空襲で消失後、1959年に再建）

再生されている）、福沢桃介と貞奴の住居だった二葉荘（現在、保存修復が決定した）などが特に有名です。

残念なことに最近人手に渡った加藤邸は建築家坂倉順三のお姉さまの嫁ぎ先で、造り酒屋の岐阜の実家と同じ京都の棟梁が建てた数寄屋造りの優美な住宅でした。

さらに東には昭和10年に開館した徳川美術館があります。徳川家康の遺品をはじめ徳川家に由来するもの、その他の大名の道具類など、江戸時代の武家社会を考察するには欠かせない収蔵を誇っています。その他、源氏物語絵巻など国宝9点、重要文化財52点、などの重要美術品も多数あります。

■住んでみてわかる名古屋のよさ

少し古い歌に「名古屋は白い街」という表現があり、この白いとは何に由来するのだろうと話題になったことがあります。色々な説のひとつには広い道路に由来するとも言われています。（道路が広すぎて街の印象がボケているということでしょうか）そう、確かに名古屋名物といえばエビフライや味噌煮込みうどん以上にきちんと整備された100m道路と言えなくもないようです。栄という一番の繁華街の中央に位置する久屋大通は中央分離帯にテレビ塔や公園があり基盤の目状に整備された町並みは圧巻です。もう1本、少し南にこのとおりと直行する若宮大通があります。5車線位の広さがあり、どの車線を走ろうかと迷うことがよくあります。

観光地としてはそれほど面白みもなく、どこに案内しようかといつも悩んでいます。清潔で程よい規模の都市計画、他の地方への足回りのよさ、そしておっとりした、競争心の少ない風土性など住んでみるとなかなか捨てがたいいい街です。

ダイアン・デイヴィス女史を迎えて



女性と仕事の未来館で

アメリカのICCC (International Council for Caring Communities) 代表のダイアン・デイヴィスさんが、昨年10月3日にUIFA JAPON事務局を来訪されました。小川会長、松川副会長、正宗副会長、総務の三上と広報の田中がICCCについてお話を伺った後、田町の「女性と仕事の未来館」と日本建築会館をご案内しました。

高齢化する社会に建築家が十分に対応できていないことを懸念したデイヴィスさんと建築史家のブッシュブラウン教授が、1994年にICCCを設立、以来高齢者問題に関する国際会議を国連と協賛で開催したり、学生設計競技を主催したりと多彩な活動を展開しているそうです。昨年9月に上海で開催された学生国際設計競技「混在するコミュニティ：あらゆる年

代のための社会」の展示会を日本で開くための協力を依頼されました。また、来る2月12日にニューヨークの国連本部において、「Caring Communities for the 21st Century」と題した国際会議を開くそうです。興味のある方はホームページ www.international-iccc.org をご覧ください。

(田中)

10月4日、デイヴィスさんと一緒に上野国立博物館の蒔絵展へ行きました。久しぶりの横文字会話、錆付きが取れず四苦八苦するうちに会場へ。平安時代からの蒔絵、象嵌の数々。その見事にダイアンさんいなく感動、芸術、美術は時代を超え、場所をこえ万人の心を打つようです。堪能後、庭園のテントでお抹茶を一服。何とか英語が通じて終わりました。

(飯島)

新シリーズ 私らしくはたらく-地域で、組織で

UIFA JAPON10 周年を契機に新たなステージへの展開が期待されています。そこでニュースレターでは世界ネットワークや地域や組織での活動を積極的に捉えていきます。地域から、職場から、世界から皆様の積極的な寄稿を期待します。

<地域で>

東京から3つの街に通う

佛教大学社会学部健康福祉学科教授 阿部祥子

■ 3つの職場、3つの地域

私の職場は、ここ10年間に3回変わり、いずれも東京の自宅を拠点に、毎週その地域へ通うスタイルで、地元意識からは距離がある生活をしている。



職場はどこも新設福祉系大や学科であり、「生活学概論」や「居住福祉」などを教えている。転職は、わが国の人口の高齢化を受け、丁度社会に「福祉」が求められる時代と符丁し、また、福祉の基礎に「生活」や「生活環境」がおかれ始めた時期でもあった。その原点をたどってみると、学生時代、月1回週末横須賀での合宿に通い、地域を丸ごと対象とする研究の意義もまだ解らなかつたが、新進気鋭の諸先生の熱気を体全体で感じていた。また、卒業後、菓害サリドマイド裁判に、原告の被害立証を目的とする資料作成に参加した。生活環境のあり方と社会問題が、密接な関係にあるという発見を深める機会であった。その後も、小川信子先生のもと、地域で暮らす高齢者や児童、障害をもつ人々の生活と環境の研究に係わってきた。

10年前着任の職場は、自動車産業のまち豊田市郊外、8世紀末のさなげ寮で有名な猿投駅から徒歩15分。緑の少ない東京から出かけると、丹精された季節の花々に、地方の潤いある暮らしが確かめられた。地域住民から自転車を譲り受けたことや、朝晩の新聞配達で自活する学生のことなど、キャンパス生活が地域に根ざしている姿に、新鮮な思いをもった。

新札幌駅からバスで10分ほどの次の職場では、極寒の冬と雪景色、本州とは違う花の大きさや色合いをみた。開封した紅茶を、もう家では飲まないからと、同僚から戴いた。一寸驚き、長く当地に住む人に聞くと、モノの少ない開拓時代の名残で、よくあることと。また、お悔やみには、領収証が返ってきた。内地の慣習を継承しつつも、入植環境に合わせ共同体独自の合理的な生活習慣を形作ってきた姿を垣間見る。そして、職場は中学の修学旅行以来一番住んでみたかった京都に移り、現在に至っている。かつて都として栄え、戦後というと応仁の乱後をさし、歴史と伝統が日々の暮らしの隅々までいき渡っている当地、簡単に「知る」ことは叶わないようだ。

■ 地域性の継承

東京を拠点として通う中、地域には歴史に裏打ちされた独自の生活システムや生活スタイルがあることを学んできた。そこで「あ・うんの呼吸」で形成されている共同体の「地元意識」のなかでは、距離のある関わり方しかできないと感じ続けている。しかし一方では、大学の学生達は地域性のカラーを越え全国共通だ。将来福祉に係わる学生たちに「暮らしの細部の積み重ねを大切にすること・地域の独自性、たくましさ大切にすること」を伝えている。彼らが社会活動を通し、それぞれの地域の豊かさを育み、独自に継承していく契機になればと。これも地域との関わり方かと思う。(聞き取り 井上祥子)

<組織で>

デザインプロデュースはネットワークが武器

リビング・デザインセンターOZONE 事業推進部 橋田洋子

■ 職業欄「その他」のわたし

あなたの職業は？と聞かれるといつも一言では答えられない。職業欄に丸をつけるときはいつも「その他」。そもそも私は、住宅やインテリアの仕事がしたくて日本女子大学住居学科を選んだ。厳密に言うと、付属出身の私は、高校で開催された大学の学部紹介でお会いした、後の恩師高橋公子先生に魅了されたことが一番の選択理由である。とはいえ、学生時代の私は、ただの遊びほうけた女子大生。設計事務所のバイトも、続かない上にしっくりこない。けれど漠然と、この業界でプロとユーザーをつなぐ仕事はないものかと。そんな中就職活動で、恩師に、「東京ガスで新しくシンクタンクの設定準備メンバーを探している」と紹介いただいたことが、私の職業欄「その他」のスタート。このシンクタンクの設定準備に関り、住関連のマーケティング調査らしき？ことを担当。幸い住関連企業、行政、大学との仕事が多く、中でも数々の建築業界で活躍する女性や大学の先輩たちに出会ったことが現在の仕事の武器となっている。

■ デザインプロデュースという仕事

その後、「リビングデザインセンターOZONE (オゾン)」という住インテリアの総合情報センター設立に関わる。西新宿のこの施設は、8年前、開業。現在年間約100万人にご来場いただいている。5つの施設機能で構成されており、約30の住関連企業「ショールーム」、



ライブラリーとコンサル機能「OZONE 情報バンク」、ホームファニッシングショップ「ザ・コンランショップ」、展覧会やレクチャーの「イベント」「セミナー」。その活動・蓄積されたソフトが核となり、現在では、関連事業をスタート。1つが、「ザ・コンランショップ」の運営で、現在福岡・丸の内でも店舗展開。2つめは、「OZONE 家づくりサポート」という家づくりの後見人となるプロデュース事業。3つめは、「インテリア事業」で、施設内でいくつかの家具ショールームを運営、内装設計施工もスタート。4つめは、会員事業を核とした「出版事業」。5つめは、企業や行政から委託される住宅からプロダクトまでの様々なマーケティング調査や商品企画・開発プロデュースの「法人受託事業」である。

私自身は、ここで主に、広報 PR、イベント・セミナー、法人受託事業の企画・プロデュースを行っている。時にお見合いおばさんと化し、様々なデザイナーと生活者と企業とのコーディネート、コラボレーションをし、時に美術館のキュレーター的動きも必要に。すべてはネットワークが頼り。今まであまり存在しなかつた職域でもあり、人から「デザインプロデューサー」という肩書きをいただくことも。手探り状態ではあるが、日夜仕掛づくりをし、大変刺激の多い仕事に恵まれている毎日である。

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5

麹町 E・C・K ビル 衛生生活構造研究所内

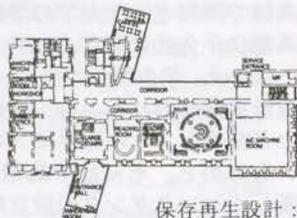
TEL 03-5275-7861 FAX03-5275-7866

メールアドレス uifa@LIQL.CO.JP

この指とまれ報告

国際子ども図書館見学会に参加して

(有) 夢工房 古居みつ子



保存再生設計：
安藤忠雄+日建設計

ルネサンス様式の代表的建築物として東京都選定歴史的建築物に指定されている「国立国会図書館支部上野図書館」が、1世紀ぶりに「国際子ども図書館」として甦ったと聞き、見学会に参加しました。

1906(明治39)年に第1期工事(レンガ組積造)、1929(昭和4)年に第2期工事(RC造)が完成した後は第2次世界大戦により中断し、「ロの字型」構想プランの1/4のみが完成したまま現在に引継がれてきた荘厳な建物です。

旧帝國図書館から一転して「わが国初の国立の児童書専門図書館」として再生されたのですが、その背景には市民の熱烈な運動があったようで、沿革表では、「国立の国際子ども図書館設立を推進する全国連絡会」が1995年に設立、関係者の数年に及ぶ地道な運動が伺えます。

再生の建築的手法は実に細部に渡り配慮され、正に現代的な職人技を凝らした再生建築物でした。

私が特に印象を受けた点は、①建物内外観意匠を共に損傷させない免震工法②新旧の衝突空間をイメージした既存の建物へのガラスボックスの挿入(増築)。結果、北・南面の外観意匠が夫々時代を表現している③漆喰技術を始めとする意匠の徹底した復元と継承。④インテリアでは現代と旧来の技術の粋を鏡い、融合させている。という点でしょうか。このように記述してもご覧になっておられない方にはどうということと思われるでしょう。紙面の都合もありますので書ききれません。カフェテリアもありますので、ゆっくり見学されることをお勧めします。

壮大なプロジェクトに圧倒されて、総工事費を何うのを忘れてしまいました。

■役員会報告

第7回 2002年11月1日(金)

議事: 各部会報告・10周年記念行事は名古屋で開催を決定・「私にとってのユニバーサルデザイン」写真展を同時開催ほか。

第8回 2002年11月22日(金)

議事: 各部会報告・UIFAパンフレット作製の準備ほか。

第9回 2002年12月19日(木)

議事: 各部会報告・ド・ラ・トゥールさん来日決定ほか。

第10回 2003年1月16日(木)

議事: 各部会報告・10周年記念イベントの日程、内容、役割分担承認。

ユニバーサルデザインを考える

ユニバーサルな心

寺尾信子

ある夏の旅行中、コペンハーゲンから郊外の町に向かう列車に乗っておりました。空港へのリムジンバスが到着するまでの僅かの自由時間、ひとり海辺の美術館に向かっていました。列車の入り口付近に立ち、窓外の景色を楽しんでいたところ、カタンと音がして、ある駅に停まり、ホームから乗り込もうとした赤ちゃん連れの母親と目が合いました。バギー車を列車に乗せようとして私を見つめる「目」。ハッと、遅れて手を貸す私・・・。

そう、その車輪は、車椅子やバギーカー、自転車などの専用車輪だったのです。誰でもOKという車輪のわりにステップの段差は気になりましたが、平らな床とストンとしたシンプルな室内空間の車輪でした。

旅行者である私にも、アイコンタクトで、当然のことをしなさいという、デンマークでは当たり前の...ユニバーサルデザインの意識の以前にある...光景であるにちがひありません。ユニバーサルデザインは、世界的に日々そのレベルも向上しているかと思いますが、人の心もそれに付いてゆくようであって欲しいと思います。人々の温かい手助けが常識となっている様子に触れ、あか抜けたセンスだけではなく、奥の深い北欧のユニバーサルデザインを見た気が致しました。

■おしらせ

アメリカのヴァージニア工科大学の国際女性建築アーカイブ(International Archive of Women in Architecture)ニュース

レター14号に、UIFA JAPON 会員の作品が紹介されました。これは、ウィーン大会のときにミルカ・プリズナコフ同大学名誉教授の要請で、参加者がIAWAに寄贈したものです。

「日本の女性建築家」と題した3頁にわたる特集記事は、日本の女性建築家の歴史として、戦前の女性建築家土浦信子さんのこと、最初の設計事務所「林・山田・中原設計同人」のこと、UIFA2001東京大会のこと、松川淳子、東由美子、石川弥生子、山本敏子、正宗量子、谷村留都、花設計工房の作品解説などで構成されています。表紙の写真は、ライトのミラード邸の工事現場に立つ土浦信子さんで、小川信子・田中厚子共著「ビッグ・リトル・ノブ」からの転載です。IAWAにはすでに200点を越す世界の女性建築家の作品コレクションがありますが、設立20周年を迎えるにあたり、日本の女性建築家の作品をさらに収蔵することを希望されています。

お問い合わせはUIFA JAPON 事務局まで uifa@LIQL.co.jp

■編集後記

梅の花と、くしゃみ鼻水花粉症に春の到来を感じています(佐東) 梅の開花や桜の花芽のふくらみに、季節の訪れの早さを感じる(須木) 白き山々に囲まれて、太陽光の虹色にハッと(中野) 戦争のない春を。大塚女子アパートの保存を。名古屋イベントの成功を(田中) 大塚女子アパートメントの保存再生へ支援の輪が広がっている。都市の記憶を取り戻そう(滝川) UDシリーズ担当としては、多彩なUDショットとの出会いが楽しみ(編集長:井田)

こだわりの
ガーデニンググッズを
揃えています

有限ヤマモトエンタープライズ

〒358-0014 埼玉県入間市宮寺2957-15
TEL・FAX042-934-5386 FAX042-934-5427

Urban Development Co-operative House
UC COORDINATE INC.

株式会社 ユー・シー・コーディネート

〒160-0022
東京都新宿区新宿 1-12-12 オスカテナ5層
TEL:03-3225-3366 FAX:03-3225-9138
<http://www.uc-coordinate.com/>

住宅・土地活用
のコンサルタント

株式会社 エス・ディー・マネジメント

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-3-13
TEL03-3272-6948 FAX03-3272-0655

UIFA 会員企画 ———— この指とまれ ————

稲富 昭 先生のお話

目と手としての建築

- ・私の修行中に会った良き教師達
- ・巨大社会における公共性と建築家の立場
- ・今なぜ、UIFA か?・グローバルの遺産

M.L.T. ヤマノードで研鑽を積まれた先生の半世紀
自由学園明日館 教室

2003年3月22日(土)14:00~16:00